

留学経験がもたらす言語能力の上達に関する考察

リップスクム・カイル

カリフォルニア州立大学モントレイベイ校

要旨

最近、日本はグローバル化を目指す一環として、海外留学を勧めている。この研究では海外留学経験が如何に会話をする際の言語使用不安の軽減に役立つか、また、クラス外での活動が言語能力の上達にどのように役立つかを海外に留学した学生にアンケート調査を行い、どのように言語使用不安が軽減されるかを調査した。この調査から日本人もアメリカ人もクラス内でのスピーキングの言語使用不安は高い。しかしクラス外でのクラブ、買物、コンパ等の社会交流において話す際、日本人は高い言語使用不安を常に感じているのに対し、アメリカ人は言語能力の向上とともにそのような社会交流の場での発話には使用不安が次第に軽減されていくことが分かった。

はじめに

外国語習得には授業内で学ぶのと、授業外で学ぶのと、留学をして学ぶのがある。授業外で様々な活動を通して実際に言語に使うことが言語習得の上達につながるとされている。しかし、言語を使う際に言語不安が高いと言語習得に支障が出てくることがわかっている。ここではいかに授業がい、特に留学においてソーシャルネットワークが言語不安の軽減に関係するのかをアンケート調査で調べてみた。

1. 研究の重要性

この研究をしようと思った理由は日本に留学した時、第二言語習得に興味を持つようになったからである。言語習得には授業で学ぶ習得と、授業外で学ぶ習得があり、留学した時にいかに授業外で話すことが自分の言語上達に役立っているかがわかった。そこで、どのような授業外の活動が上達に役立つかアメリカ学生と日本学生にアンケート調査をして調べた。

2. 研究質問

1. 如何に海外留学経験が会話をする際、不安の軽減に役立つか。

2. どのようなクラス外での活動が言語能力の上達に役立つか。

3. 研究背景

3.1. 日本のグローバル化

日本は戦後アメリカの指導の下に国を立て直した。日本は目覚ましい復興をとげ1980年代中ごろからGDPがアメリカについて世界第二位を占めるまでになり、留学生の数も多かったのだが、1990年にバブルが崩壊し留学生の数が著しく減った。その傾向はいまだに続いており、国としてはグローバル化に力を入れ、経済の活性化のためにも留学に力を入れる必要があった。

3.2. 日本交流基金

グローバル化を進めるために国はニューヨークとロスアンゼルスに日本交流基金を創設し、非営利団体の支援を日米間の促進のために行っている。

3.3. 日本の海外留学する学生の傾向

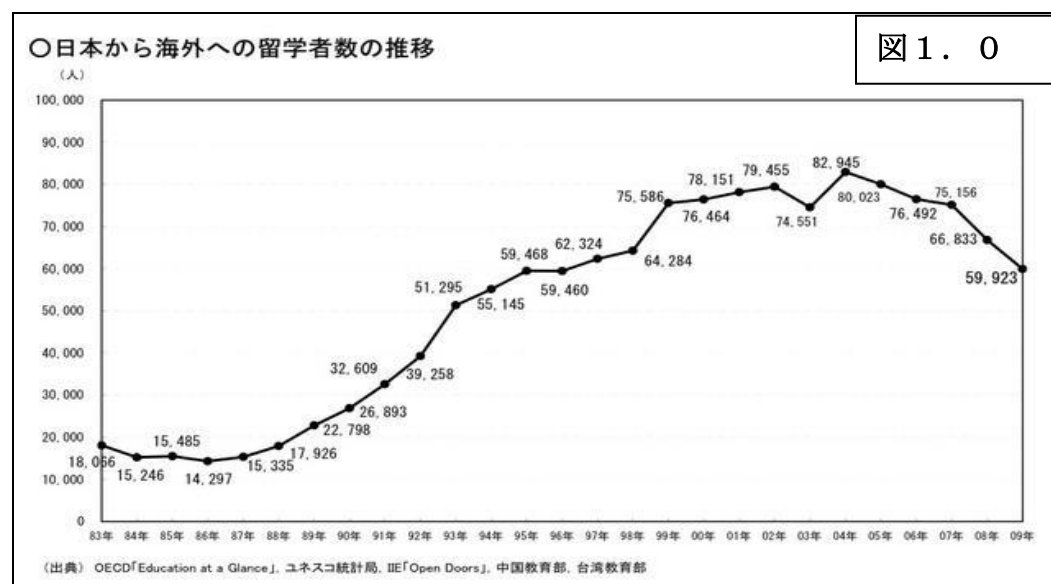


図 1 に示されているように、1983年からピーク時の2004年までの留学人数差は2003年を除き、増え続けていることがわかる。しかし、2004年から2009年

までの5年間で留学生の数は減少し続けていることがわかる。これは前に述べた経済の動きを反映していることがわかる。

3.4. 大学でのグローバル化

大学でのグローバル化は2004年の文部科学省による大学教育改正に始まった。国は30のプロジェクトを援助し、日本のグローバル化支援をしている。大学をグローバル化するためには「グローバル人とは何か」、他の文化の中で暮らしたり働くことの重要性を教えなければならない。さらに、日本をグローバル化するために教育面で次の2つのプロジェクトを立ち上げた。一つは2011年に日本からアメリカに留学生を送る「絆」プロジェクトである。このプロジェクトには短期10日間のと、長期留学1年間の2つがある。二つ目は「架け橋プロジェクト」で両国の魅力を紹介するためアメリカから日本に、日本からアメリカにそれぞれ2,300人の高校生を送るプロジェクトである。

3.5. 留学した日本学生

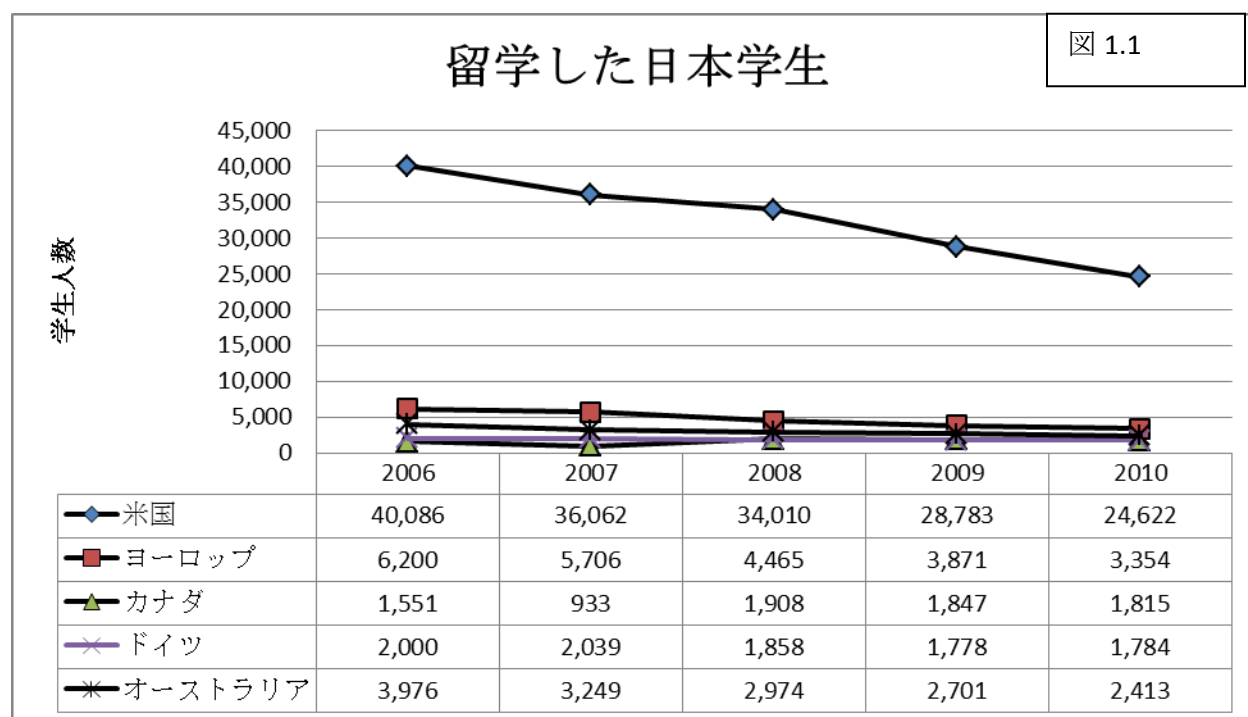


図 1.1 は、日本人留学生数を示している。留学生が減少していることが分かる。

3.6. 国別で見た日本への留学生

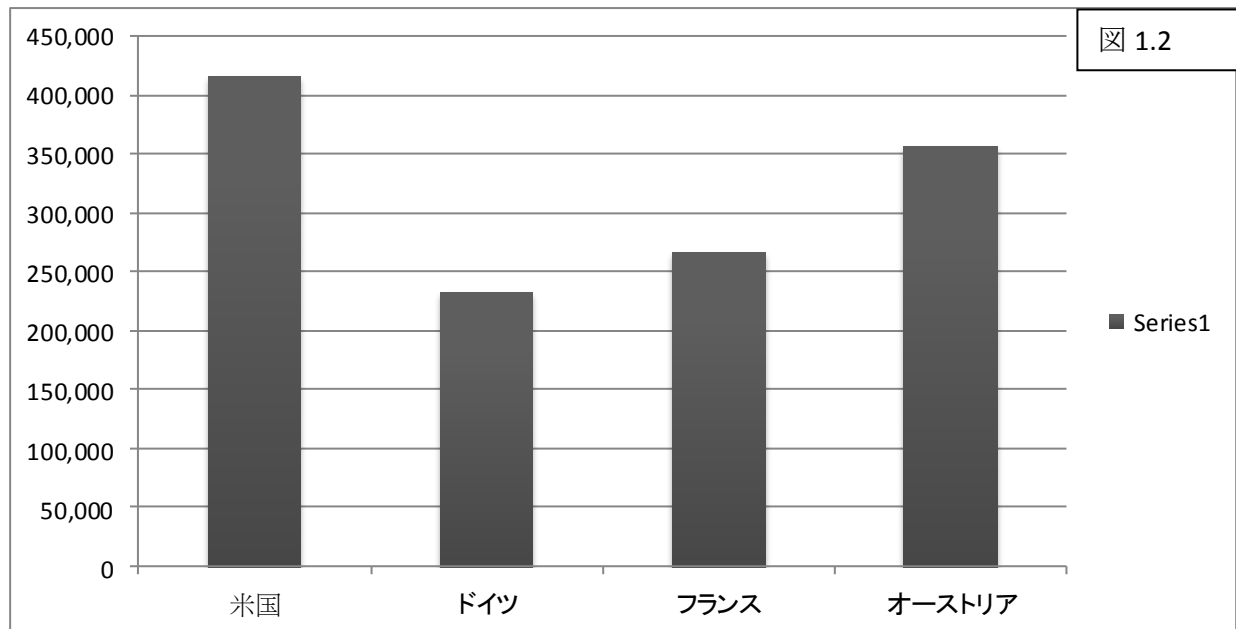


図 1.2 にあるように、国別で見ると留学生はアメリカからが一番多いことがわかる。

3.7. JASSOが給付する外国人奨学生为国別グラフ

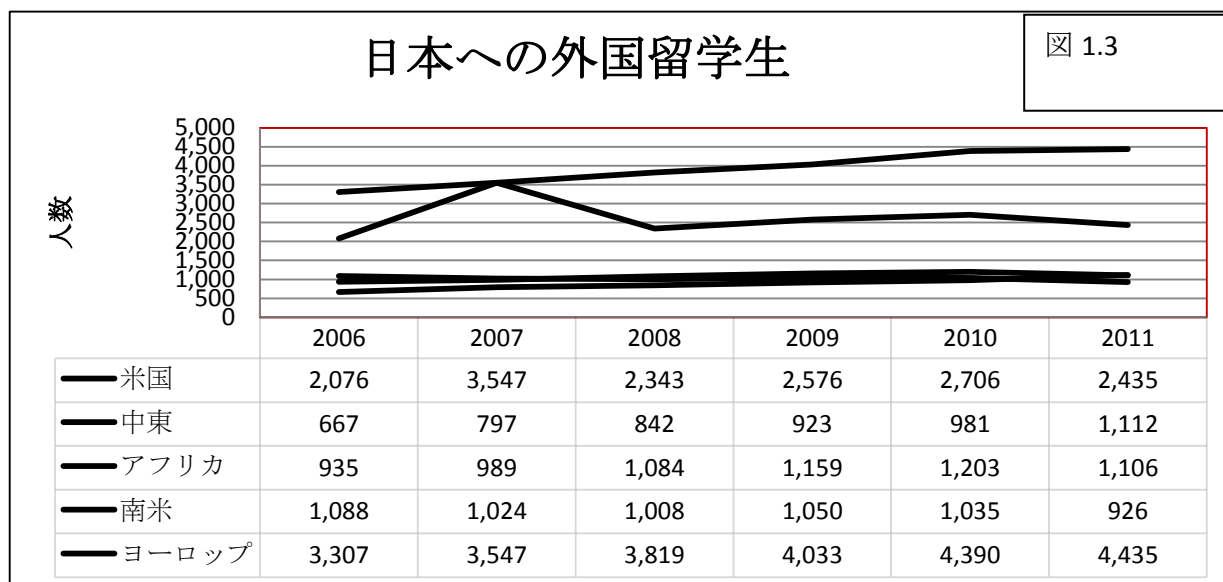


図 1.3 にあるように、国からの奨学金で外国人留学生が増えてこることが分かる。

3.8. 日本の小学校における英語教育

日本ではまたグローバル化の一環として、文部科学省では2011年から小学校での英語教育を必修にした。その目的は外来語を通じて言語会話能力を育成するとともに異文化理解を高め世界と対応できる人材を養うためである。この政策には少し無理があると言えるが、英語教育の歴史の上でも画期的なことである。日本では文法に重きを置き、訳読を中心に行われており、クラスで英語を話す機会はない。従って英語でする英語の授業は現在の英語の先生にはとても難しいといえよう。

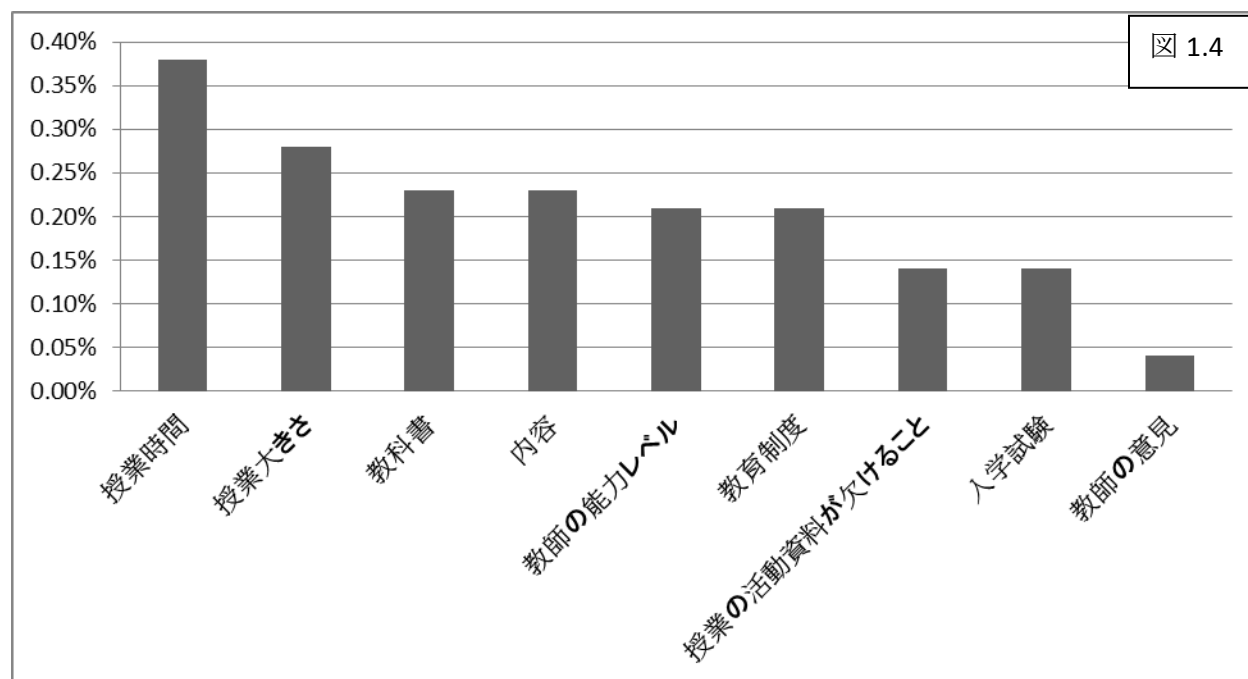


図 1.4 に示されているように、日本の先生がなぜ英語があまり話せないのかは、その理由としては授業時間が短いこと、クラスの数が多いこと、教育内容が適切ではないこと、教師が英会話能力に欠けること、入学試験に問題があること等が上げられる。

3.9. アメリカにおける外国語教育

さて、ここで少し外国語教育を見てみよう。アメリカではグローバル社会に通じるコミュニケーション能力の育成のため様々なガイドラインが公刊されている。198

6年に公刊されたACTFLガイドライン (ACTFL))は学習者の機能的能力を測るための尺度でこのACTFLガイドライン普及がコミュニケーションを重視した教育に拍車をかけた。そして、1996年に刊行されたナショナルスタンダードはコミュニケーションだけでなく、会話文化、他の文化を理解すること、知識を得る、コネクション (つながり)、他の学問と結んで知識を得る、比較、言語や文化の特徴を良く見て理解する、コミュニティ (地域社会)、自国や外国で多言語社会に参加するが含まれており、幅の広い言語教育を目指すと共に、近年の21世紀に必要なスキルの公刊と、ますますグローバル社会で活躍できる学習者の育成にアメリカでは力を入れていることが分かる (21世紀のスキルアップ参照)

3.10. ACTFL言語運用能力ガイドライン

ACTFL言語運用能力ガイドラインでは、最上級・上級・中上級・中級・初級に分けられており、ガイドラインは実際の社会の中で日常行われる話す、聞く、書く、読みの4技能の尺度を評価できるようになっている。アメリカにおける21世紀の外国語学習スタンダードの目標はこのコミュニケーション、文化、コネクション、比較、コミュニティの5つからなっている。

3.11. 21世紀に必要なスキル

21世紀に必要なスキルはこのように12項目ある。12の項目はコミュニケーション、共同作業、批判力のある考え方と問題解決法、創造力と革新力、情報リテラシー (情報を入手、活用する能力)、メディアリテラシー、テクノロジーリテラシー、柔軟性と適応性、自発性と自らによる方向決定、社会性と異文化能力、産み出す力と説明責任、リーダーシップと責任である。これらのスキルは21世紀を担うために必要でありクラスでも取り入れるように指導されている。

3.12. 言語能力を向上させる方法

言語能力を向上させる方法には学校内で学ぶもの、学校外で学ぶもの、留学等がある。また、言語にかかわってくるものの1つに言語不安がある。言語不安とは何かとい

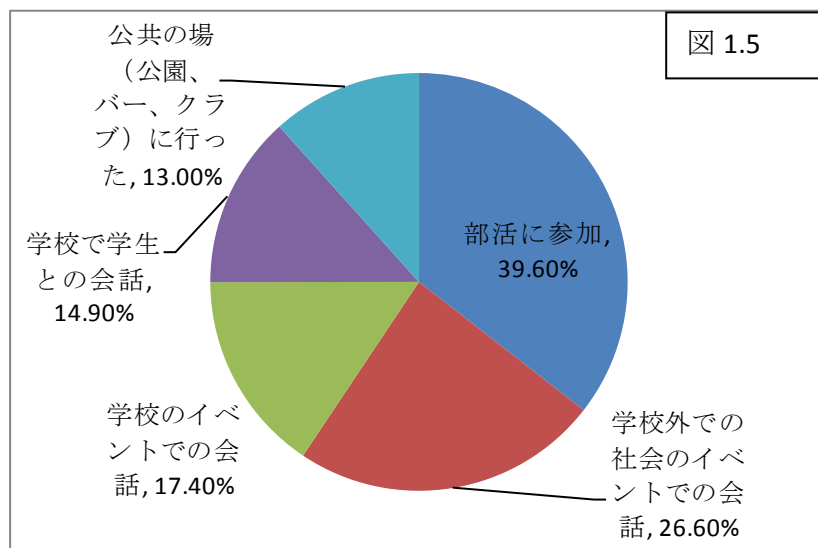
うと、自己認識、学習者の信念、振る舞いなど複雑にからみあい言語能力が高まる過程で起こるものである (Horwitz, 1986)。不安は外国語習得に大いに影響する。例えば、不安が高くなるにしたがい外国語で意見を伝えたりするのができなくなったり、悪い成績を取るのが心配で力を出せなかったり、いい成績の期待を意識するあまりいい成績が取れなくなるという現象である。

3.13. クラス外でのコミュニケーションに参加する活動例

言語習得には授業外での活動も非常に大事である。例えば、部活への参加、公共の場に行く、言語カフェに行く、ハイキングに行く、スポーツ大会に参加する、学校のイベントや授業へ参加する、食べ放題の所に行く、公共浴場に行く、パソコンでのチャットをする、言語を使うことにより言語習得が早くなるということである。その意味では留学はとても大事である。

3.14 ソーシャルネットワークの形成

図 1.5 にあるように、Dewey の研究によるとソーシャルネットワーク活動の中でも、部活に参加することが一番上達すること、次に学校外での社会イベント、学校のイベント、学校で友達との会話等が、大いに言語の上達に役立っているとしている。つまりこの研究を通して授業外でのソーシャルネットワークがいかに上達にかかわっているかが分かる。



4. 研究結果

4.1. 研究質問 1：如何に海外留学経験が会話をする際の不安の軽減に貢献するのか。

日本人大学生とアメリカ大学生合計60名対象にアンケート調査を行った。60名の内、26名が日本人でアメリカで英語を勉強しており、18名のアメリカ人は日本で勉強をしたことがある学生である。その他2名は日本で日本語を勉強している。

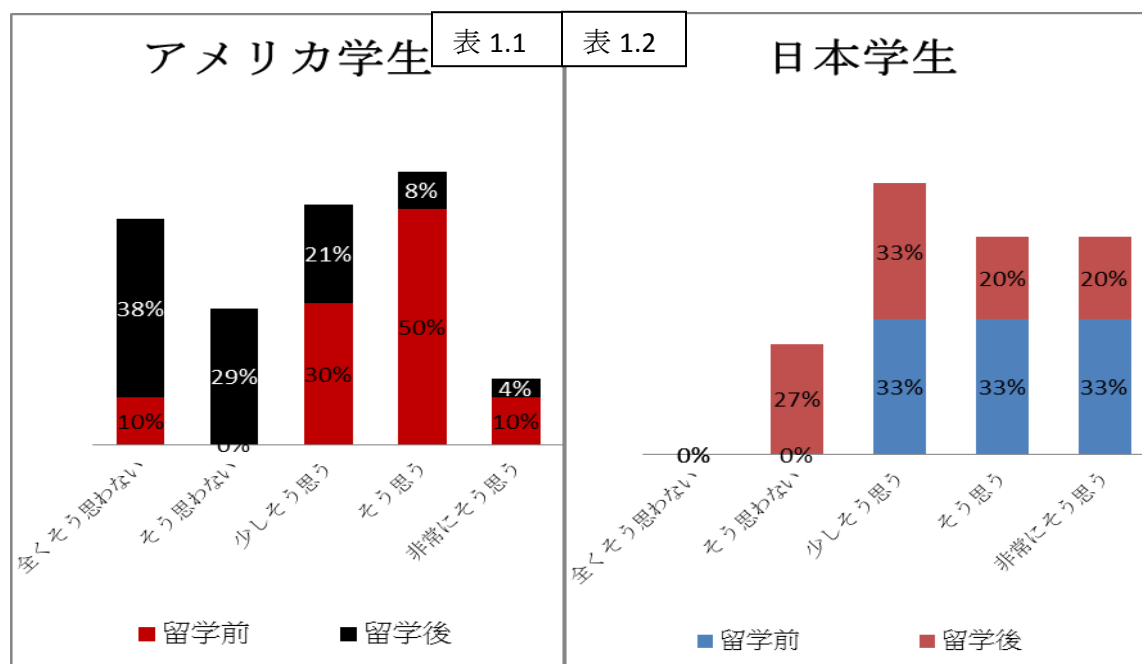


表 1.1 と表 1.2 は海外留学経験がクラス内でのスピーキング不安を軽減する助けになっていることを示したもので、75%以上のアメリカ人学生は留学後に言語不安は減少し、約50%の日本人学生は減少したと答えた。

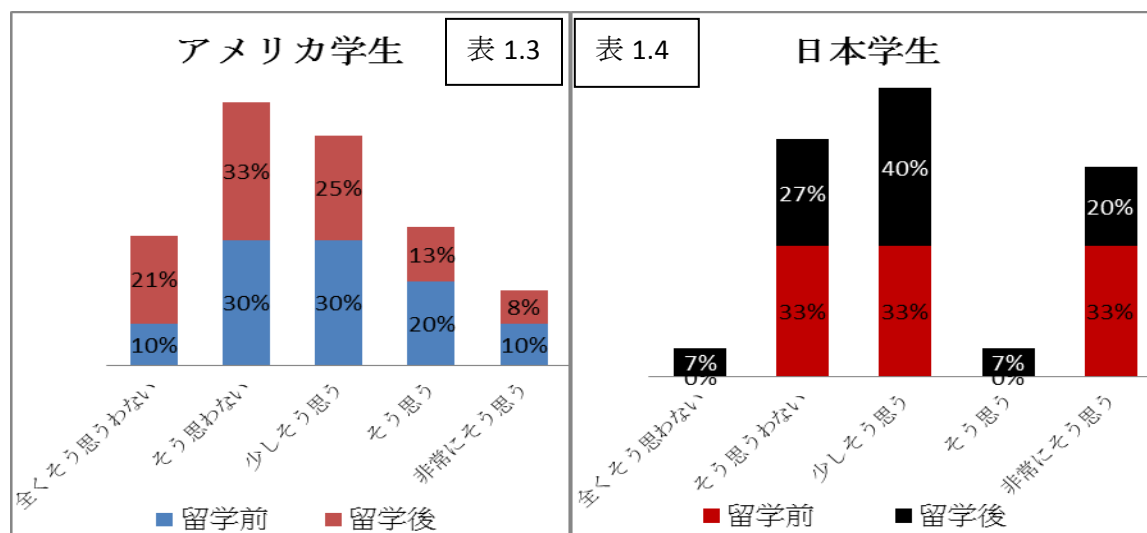


表 1.3 と表 1.4 は「母語話者と話す内容を準備をしていないと緊張する」に対しては留学前と後ではアメリカ人には変わらなかったが、日本人学生の 13% は言語不安が軽減されたことがわかる。

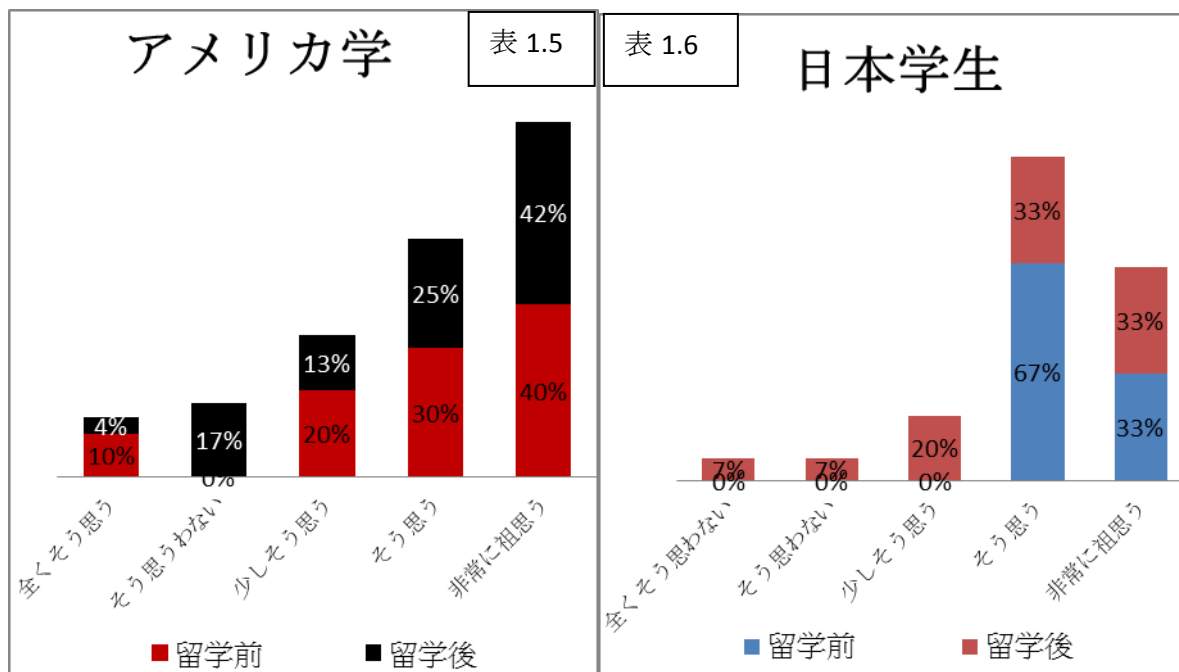


表 1.5 と表 1.6 は海外留学経験は人前で話す際の言語不安にはあまり役立っていないことを示している。

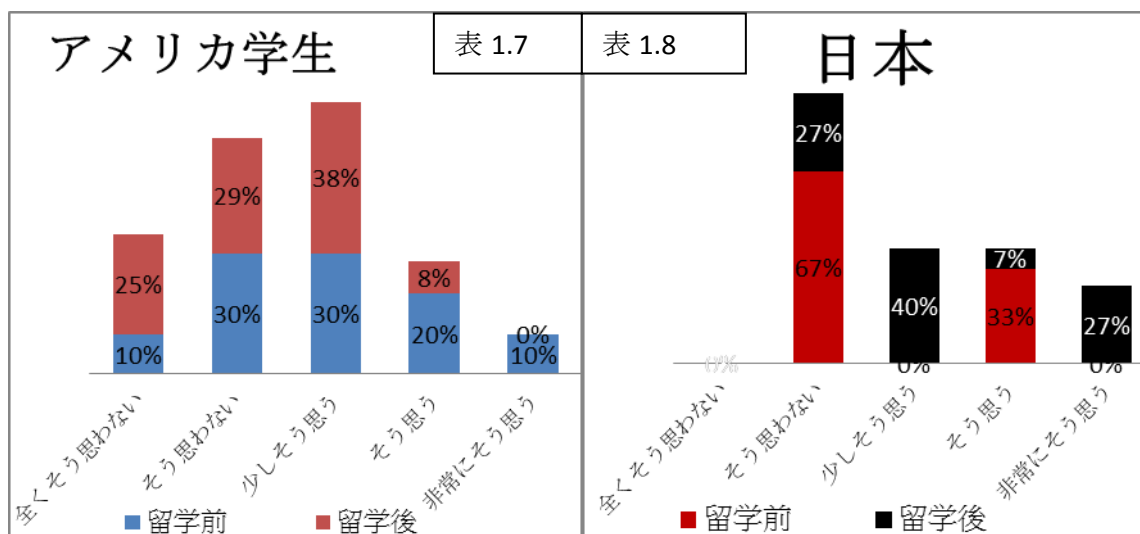


表 1.7 と表 1.8 は「クラスメートから悪い評価がされるとピーキングアクティビティに参加したくなくなる」という質問に対し、日本人は留学する前にそう思わなかった学生が多かったのに対し、アメリカ人には違いが出なかった。

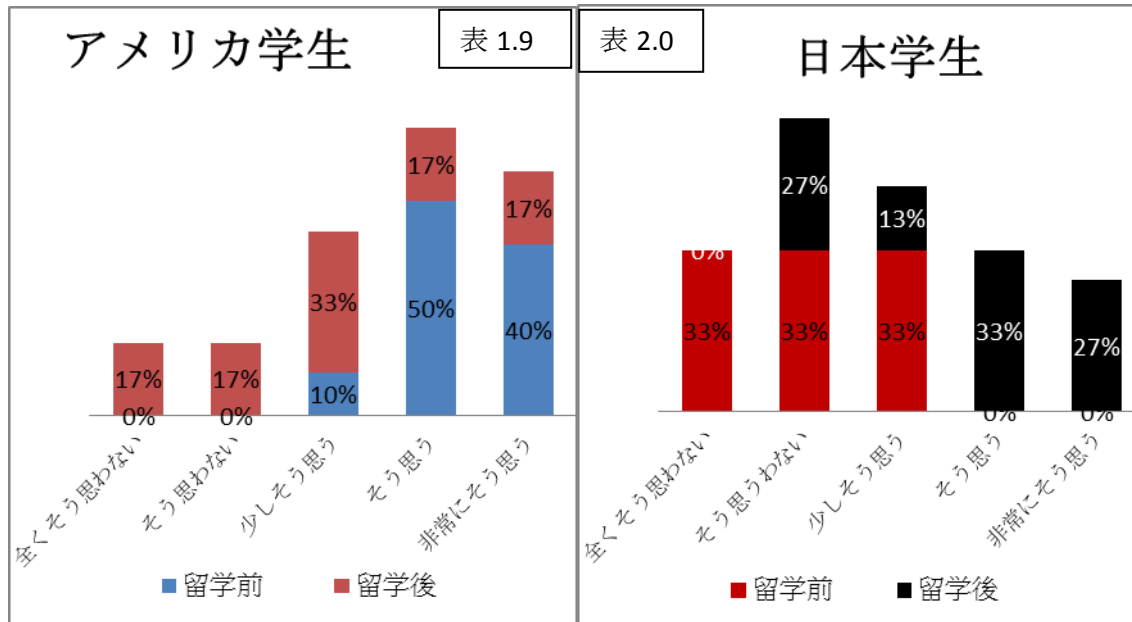


表 1.9 と表 2.0 は海外留学が母語話者と会った時にスピーキング不安の軽減に役立っているかどうかを示したもので、アメリカ人学生は75%軽減していたが、日本人学生には変化がなかった。

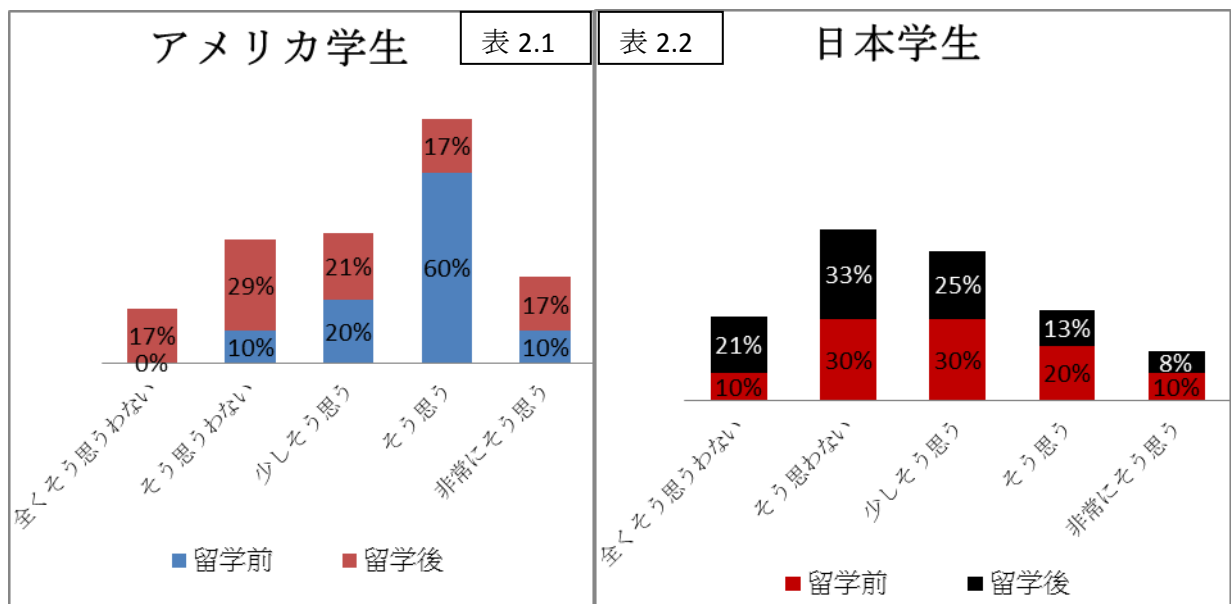


表 2.1 と表 2.2 は「間違えることが怖くて話す時にゆっくり話してしまう」というのには、アメリカ人は留学をすることにより軽減されたが、日本人はあまり軽減されなかったことを示している。

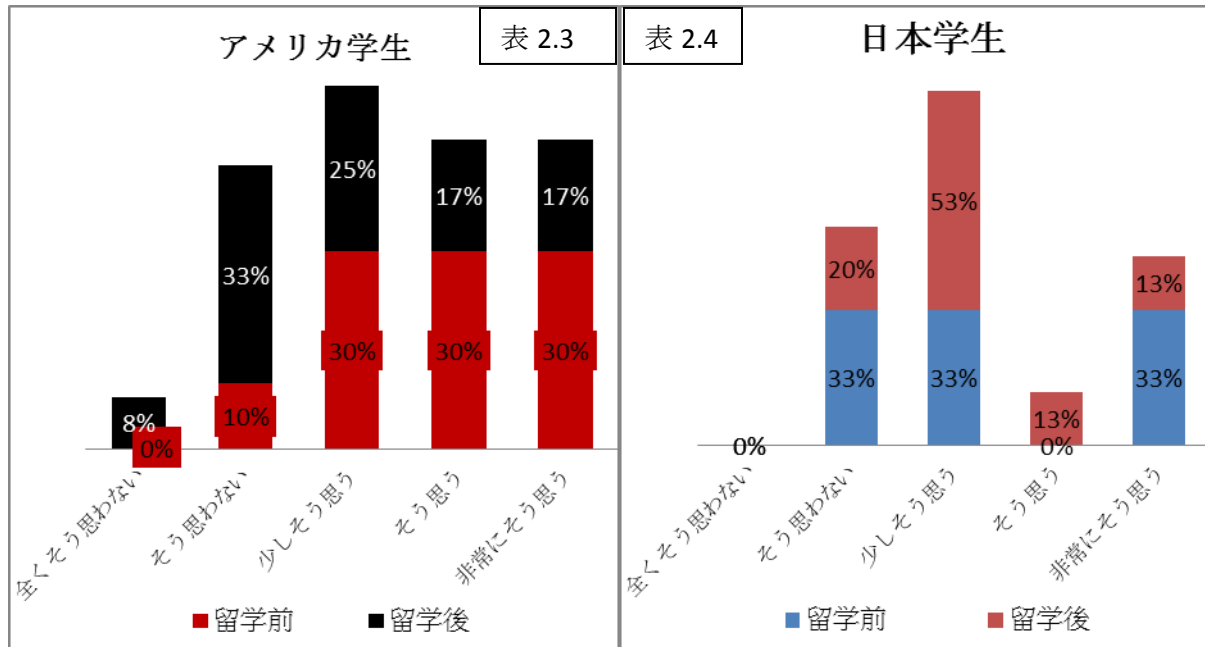


表 2.3 と表 2.4 にあるように「海外留学経験によって正しく話さなければいけないと思う不安」は日本学生もアメリカ学生も約 50% 言語不安が減ったことが分かる。

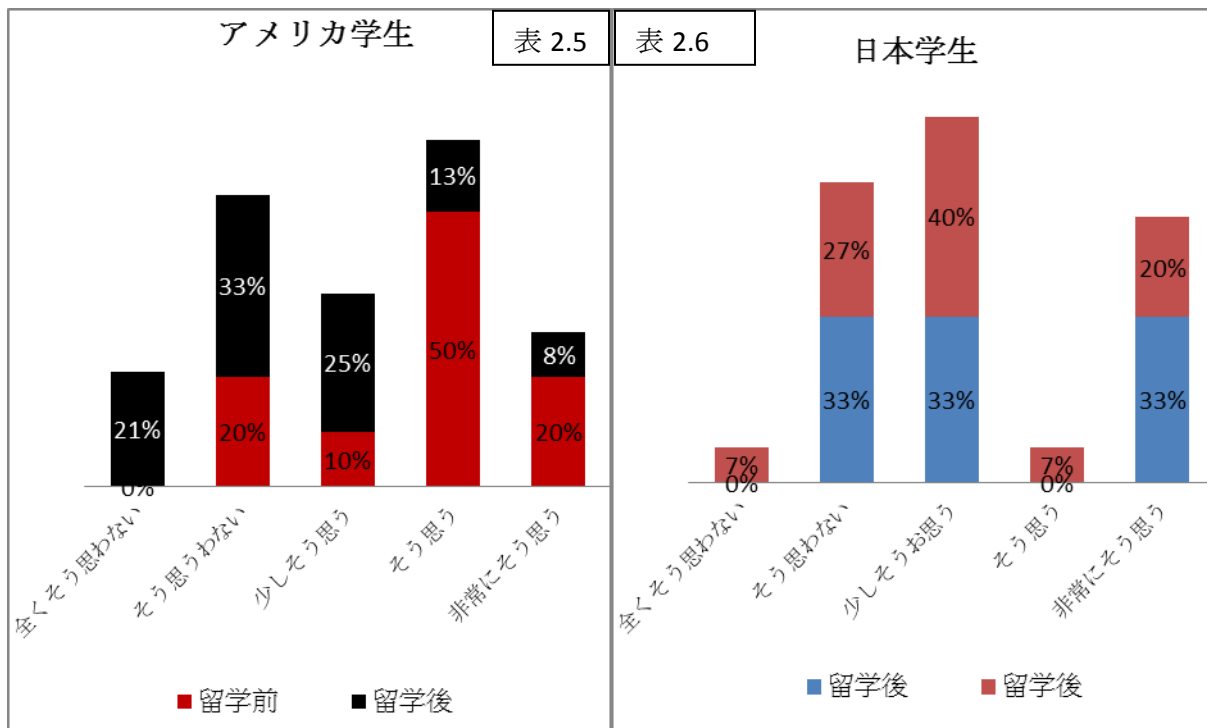


表 2.5 と表 2.6 は海外留学経験によって準備不足による会話の際の不安が軽減されたかどうかを示したもので、半分以上のアメリカ人学生は言語不安が減ったが、日本人学生はあまり減らなかった。

4.2. 研究質問 1 のまとめ

アメリカ人学生は留学する前には母語話者と話す時に言語不安を感じていたが、留学後は軽減されたが、日本人学生に変化は見られなかった。アメリカ人も日本人も人前で話す時の言語不安も悪い評価への言語不安も留学後も軽減されなかった。日本人は留学前も後も高い言語不安を感じているようである。また、アメリカ人も日本人も最も高い言語不安を示したのは人前で話す時と母語話者と会話する時だということが分かった。留学することにより、日本人はクラスメートから悪い評価を受けた時、言語不安は高くなるようである。その反面、アメリカ人はあまり影響しないということが分かった。また、日本人もアメリカ人も留学後は間違いを恐れることから来る不安がとても軽減されていることが分かった。

4.3. 研究質問 2: どのようなクラス外での活動が言語能力の上達に役立つか。

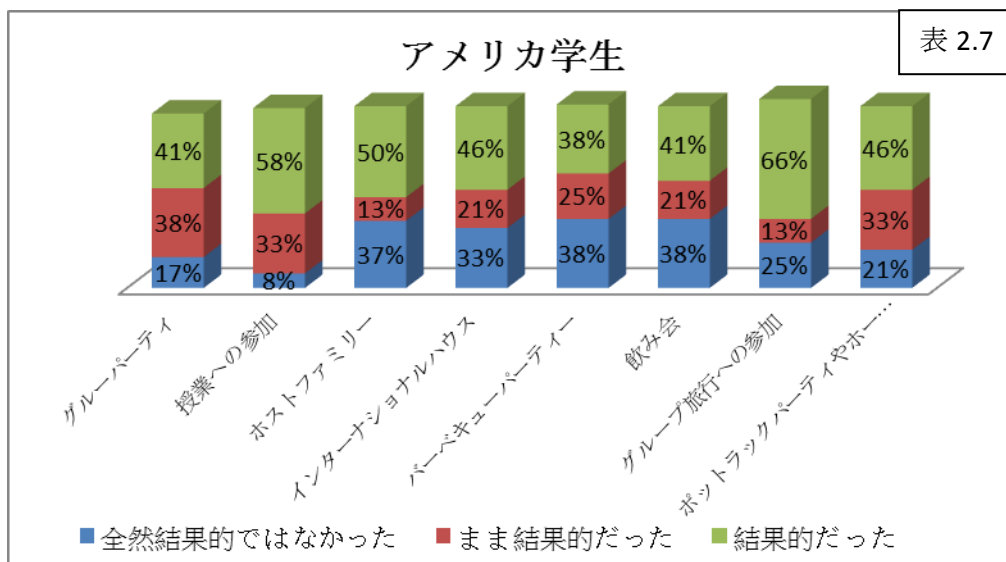


表 2.7 は、アメリカ人にとってどのようなクラス外での活動が言語能力の上達に役立つかについて示しているが、アメリカ人にとって授業に参加することとグループ旅行をすることが言語上達にとっても効果的だったことが分かった。

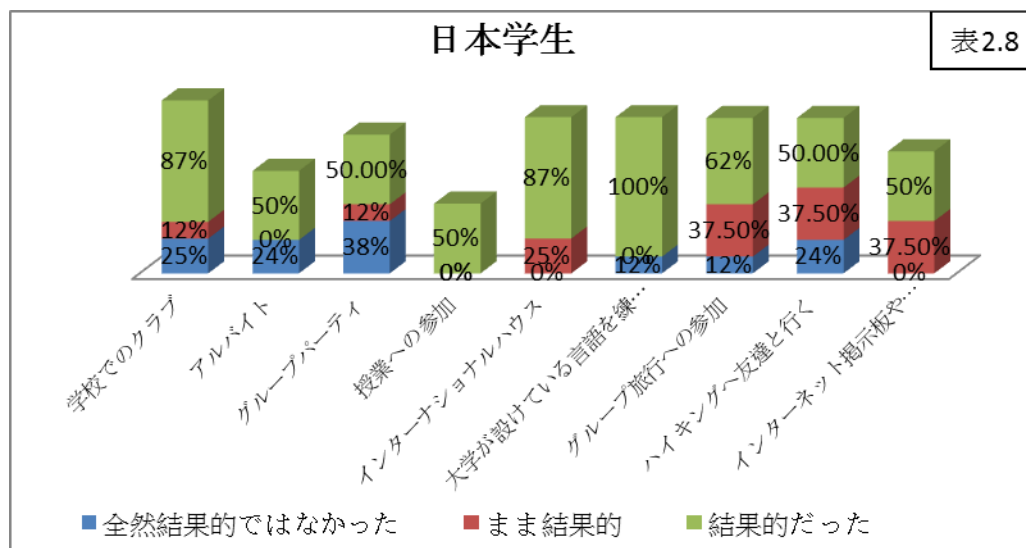


表 2.8 を示すように、日本人はインターナショナルハウスに住むこと、ラウンジに行くこと、授業に参加することがとても役立っていることがわかった。

4.4. 研究質問2のまとめ

授業への参加、グループ旅行、グループパーティー、インターナショナルハウスに住むことはアメリカ人にも日本人にも言語の上達に非常に役立つこと、又、グループ旅行も効果的だと半数の人が思っていることが分かった、また、日本人はインターナショナルハウスに住むことが言語の上達に効果的だとしているが、一方、半数以上のアメリカ人はそう思っていないことが分かった。

5. 結論

この研究を通して、アメリカ人は留学前は日本人より言語不安が高いだが、留学後は日本人より低くなっている。いかに留学生活が言語習得に役立っているかがわかる。アメリカではコミュニケーションを重視する教育のため、アメリカ人は日本人より言語不安が低い。又、面白いことに日本人の場合、留学後も言語不安は軽減されることが分かった。インターナショナルハウスに住むこと、母語話者と常に会話すること、授業に参加することは言語上達の上で最も効果的であることが分かった。言語が上手になるためにはクラス外での生活も大事である。アメリカ人と日本人に見られた共通点としては、一つはクラス外での環境と、学生同士のグループ活動が言語上達に役立つこと、又、

アメリカの外国語教授法はクラス外での交流を促すので、容易に打ち解け言語も上達する。又、日本人は個人よりグループ活動を大切にするため、授業よりグループ活動を通して活動することによって言語が上達するようである。

6. 研究における限界点と将来の研究課題

この研究における限界点は電子メールでアンケート調査を行ったため十分な人数の確保が難しかったことである。将来の研究の課題としては留学前、留学中、留学後など長期にわたる研究を行い、留学による効果の調査や、言語習得がダイエツトに与える影響についてなどの研究を行いたいと思う。

参考文献

- Eguchi, A. (n.d.). *Inside elementary foreign language classrooms: the influence of teachers pedagogical beliefs*. Retrieved from <http://repository.aichi-edu.ac.jp/dspace/bitstream/10424/4219/1/claritas222747.pdf>
- Ellis, R. (2012). Second language acquisition. In *Oxford introductions to language study* (pp. 20-21). Oxford, NY: Oxford University Press.
- Horwitz, E. K., Horwitz, M. B., & Cope, J. (1986). Foreign Language Classroom Anxiety. *Modern Language Journal*, 70(2), 128. Retrieved from EBSCOhost.
- International students in Japan 2010. (2010, December 22). Retrieved February 2, 2014, from Japan Student Survives Organization website: http://www.jasso.go.jp/statistics/intl_student/data10_e.html
- Isozaki, Ikuo. (2009). *Globalization, Education and Japan* (presentation document). Conference on Language Policies. Sophia University.
- McKinley, J., & Thompson, M. (n.d.). *The Globalization of Japanese Higher Education and the FLA Core*. Retrieved from http://fla-sir.weebly.com/uploads/2/4/7/1/2471121/sir33-mckinley_thompson.pdf
- Nishino, T. (2008). Japanese secondary school teachers' beliefs and practices regarding communicative language teaching: An exploratory survey. *JALT Journal*, 30(1), 29-30
- Outline of student exchange system: Study in Japan 2010*. (n.d.). Retrieved April 2, 2014, from MEXT: Ministry of Education, Culture, Sports, Science and Technology-Japan website: http://www.mext.go.jp/component/english/_icsFiles/afieldfile/2011/12/14/1303740_1.pdf

Pellegrino Aveni, V. A. (2005). *Study broad and language use*. Cabridge, United Kingdom: Cambridge University Press.

Ring, S. A, Gardner, D. & Dewey D. P. (2013). Social network development during study abroad in Japan. In K. Kondo-Brown. Y. Saito-Abbott, S. Satsutani, M. Tsutsui, & A. Wehmeyer (Eds), *New perspectives on Japanese language learning, linguistics, and culture* (pp. 95-121). Honolulu: University of Hawai'i, National Foreign Language Resource Center

Standards for foreign language learning. (n.d.). Retrieved from http://www.actfl.org/sites/default/files/pdfs/public/StandardsforFLLexecsumm_rev.pdf

Taillefer, Gail F. (2005). Foreign Language Reading and Study Abroad: Cross-Cultural and Cross-Linguistic Questions. *The Modern Language Journal* , 89(4), 503-52.

Taillefer, Gail F. (2007). Study Abroad for Advanced Skills *Japanese Language and Literature* , 41(2), 245-269

Thompson, Christopher S. (2007). Study Abroad for Advanced Skills. *Japanese Language and Literature* , 41(s), 315-332

UNESCO Institute for Statistics. (2008). *Global Education Digest 2008*. Montreal, Quebec: UNESCO Institute for Statistics